

## 変化と学力向上

三股町教育委員会  
副主幹 郡司 大円



新学習指導要領が完全実施となり、GIGAスクール構想による一人一台端末の配置や新型コロナウイルス感染症対策、働き方改革等、学校教育を取り巻く環境は、大きく変化しております。その変化の中で、日々ご尽力いただいている皆様に対し、心より感謝申し上げます。

今年5月27日に全国学力・学習状況調査が実施され、9月1日に結果が公表されました。本県の結果及び教育事務所別の結果が報道され、「情報を整理・選択する力」や「論理的に説明する力」が十分に身に付いていない状況にあることが分かりました。また、全国学力・学習状況調査の質問紙の中に、「国語の授業の内容はよくわかりますか」等、教科毎の項目が設定されており、各教科における本町の肯定的な回答の平均は、全国や県平均よりも、小学校でやや低く中学校で相当低い状況でありました。

学力向上につながる授業改善が喫緊の課題であることを再確認できた今、各学校及び三股町教育委員会として、何に取り組むべきかを整理し、確実に実施する必要があると考えております。

そこで、三股町教育委員会としては、学力向上対策として、次の5つの施策を推進していきたいと考えております。

- (1) 語彙力・読みの力の育成を図るために、仮名文字の学習でつまずきやすい課題である「特殊音節」の習得を確実に遂げることをねらいとして、MIMの実施拡大に取り組めます。
- (2) 論理的に説明する力の育成を図るために、長期休業中を中心に論理力を身に付けるドリルを実施します。
- (3) 読解力・論理力を身に付けさせたり、学力調査問題に慣れさせたりするために、みやざき小中学校学習状況調査過去問を活用する取組を行います。
- (4) 習熟の時間確保と評価及び児童生徒が主体の授業改善に取り組むために、授業モデル「みまたんモデル」の改訂に取り組めます。
- (5) 個別の支援の充実を図るために、教科横断的な力を測り、学級集団としての特徴、また、個の特徴を認知能力から把握し、個への支援の充実及び授業改善につながるNINOの実施拡大と研修に取り組めます。

三股町教育委員会としては、確かな学力を確立するために、児童生徒一人一人の個性、能力を把握し指導に生かす教育を進めるとともに、一人一台端末の有効な活用も含めて授業改善につながる施策に取り組んでまいります。

終わりに、大きな変化を迎えております学校現場において、教科等の指導方法や児童生徒への関わり方等も柔軟に変化させることが肝要です。

文教の町として歴史と伝統ある三股町で育つ子どもたちが、心豊かでたくましく生きる力をもった子どもたちに育ってくれることを願っております。

本年度は、3つの研究班に分かれて、それぞれの研究を進めてきました。

### 1 認知能力検査NINOの活用班

昨年度の課題から、以下の3つのことを視点に研究を行ってきました。なお、紙面の関係で実践例は②の項目とし、認知能力の「思考力」に関する実践例のみ記載しました。詳細は研究紀要に記載します。

- ① 児童・生徒に対する指導の手立てが有効かどうか判断する検証方法について
- ② 昨年度のタイプ別ごとの研究に加え、より活用しやすいよう認知能力ごとの手立てについて

認知能力	得意な能力を活かした学習	さらに伸ばすための手立て
思考力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複雑な問題についてじっくりと考える時間を設定する。</li> <li>・条件を分類・整理しながら問題を理解できるようにする。</li> <li>・解決の道筋を考え、実行し、その解答を確かめることができるようにする。</li> <li>・グループ学習を通して、友達の思考の仕方を学ぶことができるようにする。</li> <li>・ベン図や階層図などを使用し、思考を整理できるようにする。</li> </ul>	<p>【パターン推理】</p> <p>→てきぱき解くことが苦手な児童生徒は、のんびりしている可能性があるため、学びの類似化を図り、前に解いた問題に似た問題に出会った時気づき、応用し、短時間でできるように繰り返し指導する。</p> <p>【比較・関連づけ】</p> <p>→状況整理をさせる。共通点と相違点を見つけさせる。調べた特徴を仲間分けし、表や図に整理させる。</p> <p>【分析・評価】</p> <p>→規則性を発見させる。理由付けをし、事象の因果関係を発見させる。普段から根拠をもとに意見を話したり、意見と根拠のつながりを丁寧に確認させたりする。論理的思考力。</p> <p>【問題発見・解決】</p> <p>→状況の改善について考えさせる。グループ活動などでアイデアを共有して、いろいろな見方や考え方を学ぶ機会を設定する。</p>

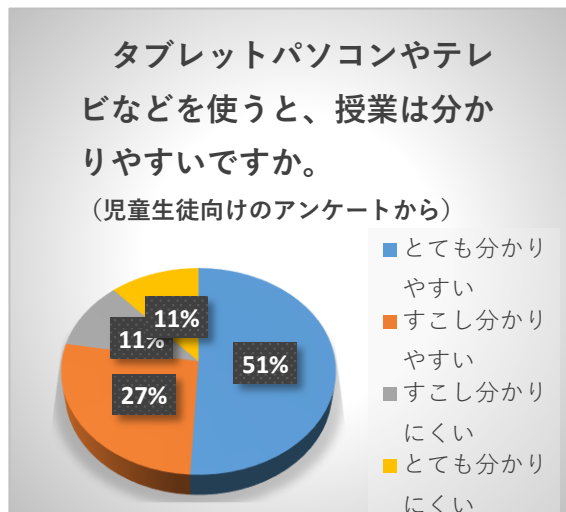
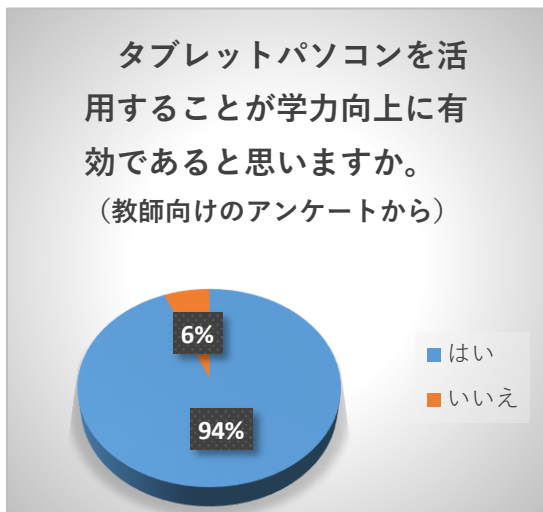
思考力の分類	判定
パターン推理 ルールに基づいて考える力	△
比較・関連づけ 比較したり関連づけたりして、概念的・体系的に考える力	○
分析・評価 情報を分析して、評価し、判断する力	○
問題発見・解決 問題を発見し、それを解決するまでの過程を考え実行する力	△

(判定の規法)  
◎…とてもよい ○…よい △…やや課題あり

③ 各学校がNINOについて、より一層活用しやすいような実践的な研究について

### 2 認知能力検査 NINO 及びタブレットPCの活用に関するアンケート班

ICTに関するアンケートは、三股町教育研究所用のアカウントを作成し、Google Form を使用して行いました。アンケート結果については、研究所で集計・分析を行っているところです。その中で、結果の一部をお知らせします。



教師用アンケートの結果から、教師側は、ほとんどの先生方がタブレットパソコンを活用することが学力向上に有効であると考えているようです。それに対して、児童・生徒もタブレットパソコンやテレビなどを使うと、授業が分かりやすいと考えている児童・生徒が多いようです。これ以外の結果についても現在分析を進めています。分析結果は令和3年度の研究紀要に記載する予定です。

**アンケートのご協力ありがとうございました!**

### 3 タブレットPCの効果的な活用法班

#### 研究授業を行いました。

#### (1) 小学校第4学年国語科「世界にほこる和紙」での取組

令和3年10月26日(火)、三股西小学校を会場に、本年度第2回目の研究授業を行いました。同校教諭である谷あすか研究員に授業を提供していただきました。

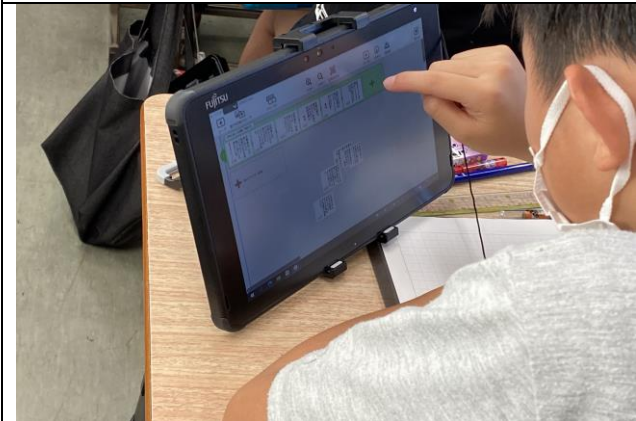
この授業では、NINO で得られた結果を分析し、児童の学びのスタイルに合った授業展開を行うこと。そのうえで、児童の個人思考やグループでの思考の時間を充実させるためにタブレット PC をどのように活用していけばいいのかということをテーマに授業を組み立てていただきました。様々な取組みについて一部紹介します。

#### 認知能力検査 NINO で得られた結果より



認知能力検査 NINO の結果より、読みの流暢性を高める必要があることが分かった。そこで、教師用デジタル教科書(国語)の範読モードにある、範読速度を調整する機能を活用し、(+3)の速さで範読を流すことにした。児童は、文を指で押さえながら追い、見ること、聞くことを同時に鍛えるようにした。速い範読を聞きながら文を追う活動を繰り返すことで、児童は、目的確に文を追う経験を繰り返すことができ、読みの流暢性の向上に役立っている。

#### 個人思考の助けとなるタブレット PC の活用



タブレット PC にインストールされている「ジャストスマイル」の「カード機能」を利用して、個人思考の場を設定した。

自分の考えでカードが動かせること。書き込みが容易にできること。やり直しがすぐにできること。元の状態に戻せることなどの利点があり、児童は自分の考えを安心して表現できるようになった。

#### グループ思考における TPC の活用




グループ思考の場面でも、タブレット PC を活用した。児童それぞれの考えを比較するために、お互いの画面を見比べる。意見を集約するために、代表のタブレット PC を操作し、発表物を作成していくなど活動が行われた。また、グループで作った発表物を大型テレビに映すことで、全体での議論に活用できた。グループ思考において、タブレット PC は、児童の意見交換の助けとなるアイテム(教具)になっていることが分かった。

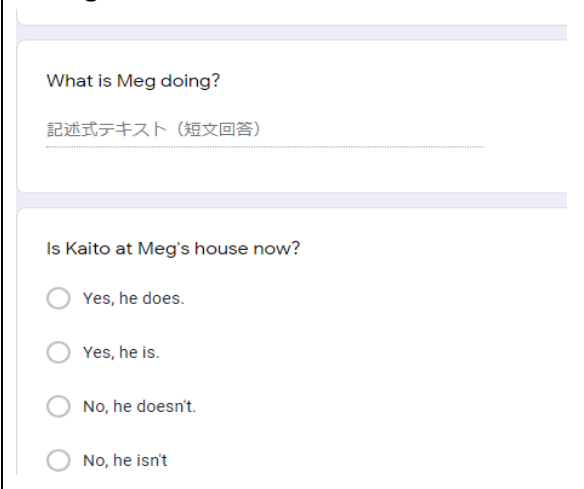



## (2) 中学校第1学年英語科「A Surprise Party」での取組

令和3年11月30日(火)、三股中学校を会場に、本年度第3回目の研究授業を行いました。同校教諭である今村信春研究員に授業を提供していただきました。

この授業では、Google の各種機能や学習者用電子教科書などを利用し、個別最適な学びと厳密な評価に基づく学習支援の実現をめざすということをテーマに授業を組み立てていただきました。様々な取組みについて一部紹介します。

<h3>電子ホワイトボード「Jamboard」の活用</h3> 	<p>授業では、黒板ではなく電子ホワイトボード「Jamboard」を使用した。教室のモニターと同じ画面を生徒のタブレット PC に配付し、生徒自らが学習のまとめを作成していくことで、主体的に学習に取り組むことができるようになった。</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<h3>Google Form の活用</h3> 	<p>Google Form の課題作成機能を使い、授業内容を把握できているかを調査する課題を生徒に解答させた。解答した結果は即座に集計され、毎回の点数は蓄積されていくので、教師が生徒の授業内容の理解度を把握することができた。</p> <p>また、生徒には、問題を解いて送信すると、すぐに結果が分かり、教師側が設定したコメント等も表示されるので、自主的に学習を進めるうえで、とても役に立っていた。</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<h3>学習者用電子教科書の活用</h3> 	<p>生徒は、学習者用電子教科書を、「新出単語の確認」「本文の音読練習」「ペアでの音読の相互評価活動」などで活用していた。</p> <p>新出単語の確認や、音読練習の場面では、電子教科書に内蔵された音声を聞きながら個別で学習することができ、「聞く」→「読む」のステップについて、各自のペースで落ち着いて取り組むことができていた。また、分かりづらかった語や文については、その部分だけ繰り返し練習することもできていた。「ペアでの音読の相互評価活動」では、回答者はタブレット PC に穴埋め式の問題が提示され、採点者は電子教科書の本文を見比べ、正誤を確かめながら聞くなど、それぞれの立場からタブレットが有効活用されていた。</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------